



# 木 木 木

千葉県 TEACCH プログラム研究会

2023年9月2日(土) 第122号

「森」字・佐々木正美  
イラスト・竹蓋伸六

発行：千葉県 TEACCH プログラム研究会広報部

ホームページ：<http://www.5e.biglobe.ne.jp/~teacch/site17.htm>

事務局：千葉県発達障害者支援センターCAS内

TEL :043-227-8557



## 第2回 連続セミナー

### 「構造化を用いた成人期の支援」

#### ～支援のアイデアと横浜やまびこの里の実践例～

(社福) 横浜やまびこの里 東やまたレジデンス 松島 祐治氏

今回は、自閉症スペクトラム(以下ASD)がある方への総合的な支援をされている松島氏に「構造化について」そして「成人期の支援について」たくさんの具体例を踏まえてお話いただきました。

#### ○ わたしたちが大切にしている支援のポイント「構造化」

構造化とは、分かりづらく・圧倒されてしまうような状況・世の中であっても、ASDのある方が安心して生活できるように分かりやすい手がかり(環境)を示し整えることである。生活や活動等が「分かりやすくなる、見通しがつきやすくなる、過ごしやすくなる、やりやすくなる、安心感・達成感を得やすくなる」ことが大切であり、そのために、一人一人に合わせたオーダーメイドで考えていくことが必要である。

#### 事例 施設入所中のAさんの余暇支援について …意思決定ができるためのオーダーメイドの支援…

月に1回の外食は毎回「ハンバーグ」と口頭で希望していたAさんに、本当の好みを伝えることができるように支援した事例。2年間、Aさんの理解できる写真や絵を中心にしたスケジュールを使い外食経験を積み重ねた。その後、3枚の写真カード(スケジュールで使用したハンバーグや寿司等の写真)から選択する方法で自分の食べたいものを選ぶようにしたことで、毎回、違うものを選べるようになり余暇支援の充実につながった。大切なことはAさんの入所施設の生活で選ぶ経験がどれだけあったかを丁寧に見取り、生活圏を広げること、本人にとって必要な手がかりが見える化することであった。

#### ○ 構造化を用いた支援のアイデア

…空間の構造化…個別のアセスメントを基に以下の点に考慮して活動しやすい物理的環境を整える。

- ① 気になる刺激を整理する(妨害刺激の除去)→人の声や音、こだわってしまうもの、気になる人、不要なものを片付ける
- ② 活動と場所を1対1(決まった場所)にする→過ごし方が理解しやすい(何をするか分かりやすい)
- ③ 物理的、視覚的に分かりやすい境界を作る→柵で家具の配置、絨毯や床の色分けで仕切る
- ④ 集団の中で個別に配慮する
- ⑤ 安全に配慮する

《アイデア》・電車で座る場所がわかりやすいように、一人分の空間を確保する。

・レストランで気になる刺激が多い場合は刺激が軽減される一番端の席に座る 等。

…日課など予定(予定変更)の構造化…個別のアセスメントを基にどのように過ごすか分かりやすく伝える(本人に合ったスケジュールシステム=時間の見える化)。

- ① どのような伝え方が良いのか→写真、写真+文字、イラスト、文字シンボル、型はめ、ICT 等
- ② どのくらいの期間、見通しが必要なのか→次の活動、半日、一日 等
- ③ 伝え方(見せ方)はどうか→壁に掲示、バインダーに挟み机の上に、着目できるように好きな鉄道に関連させて作成し掲示、終わったら一つずつ剥がす、一つずつ裏返す 等

変更(変化)を伝えることや、活動によってはその意味よりも本人の理解と納得を目指すことが大切である。

《アイディア》「避難訓練」ではなく「机の下にもぐる」「玄関に行く」ことを、予定として伝える。

・・・活動の手順や仕方の見える化・・・個別のアセスメントを基に、作業や掃除、床屋等の活動の手順と仕方、始め方と終わり方、終わったらどうするのかを視覚的に伝える。

① どのような手がかりがあればわかりやすいか→写真、イラスト、文字、シンボル

② どのように示したらわかりやすいか→手添え、見本、ジェスチャー、指差し

《アイディア》・声の大きさがわかるアプリ(こえキャッチ)や歯磨きアプリ等ICTを活用する。

・外出場面の手順書を本人のわかりやすさと携帯のしやすさを考えて、A4一枚にカラー印刷(全行程と留意点)し、必要な提示箇所を折り畳んで見せる形にする。

**事例 Bさんの記憶と衝動性に翻弄された余暇外出支援について・・・行動援護事業での取り組み・・・**

休日6時間の余暇外出支援の依頼を受けるが、自宅に早く帰りたいという思いから活動の終了時間まで待たずダッシュを繰り返すBさん。さらに自傷や近隣宅に突入することも多い。そこで再度、保護者や作業所、ヘルパーへの聞き取り(再アセスメント)を行った。本人にとってわかりやすく、過ごしやすくなるように「写真スポットめぐり」チェックシート(7つのポイントを写真で示し、当該場所で写真を撮ったら○を付けるチェックカード)を作成し活用したところ6時間の余暇外出が可能となった。ヘルパーと事業所間で困ったことを共有し、本人の理解と納得の差をアセスメントチーム支援で埋めていくことが大切であった。

今回、成人の施設や行動援護事業での構造化についてたくさんの視覚支援をしていただきながら具体的にわかりやすくお話いただきました。繰り返し強調されていたことは「個別の評価(アセスメント)」と「本人の理解と納得」だったように思います。その重要性和共に「繋げるために抱え込まない、繋がること・繋げることも支援の一環」「『支援力』の引き出しと『支援者』の引き出しを増やす」という松島氏の言葉が印象深く、心に残りました。

## **令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第3回連続セミナー 講師紹介**

演 題：「特別支援学校における自閉症教育

—「基礎・基本」と「チーム指導の手立て」—

講 師：宮野 雄太 氏 横浜市立港南台ひの特別支援学校 教諭

宇都宮大学教育学部卒業。現在 筑波大学人間総合科学学術院 人間総合科学研究群リハビリテーション科学学位プログラム 博士後期課程在籍 論文「知的障害特別支援学校の担任を対象にした『協働アセスメント』と『5分間ミーティング』による協働促進に関するアクションリサーチ」等多数。御自身の多くの研究から証明されたエビデンスを基に、特別支援学校で実践され御活躍されています。

## **令和5年度千葉県 TEACCH プログラム研究会第4回連続セミナーについて**

日 時：令和5年10月8日(日) 14:00~16:30 (13:30受付)

内 容：「構造化を用いた家庭での取り組み

—ASD・重度知的障害 発達と療育の記録—

講 師：國則 由美子 氏 (保護者)

会 場：千葉県教育会館303会議室(予定)

※オンデマンド動画配信 配信期間：10月13日(金)~10月29日(日) 17:00まで

※申込締切日：令和5年10月2日(月)

【編集後記】災害級の暑さが続いた夏でした。皆様、体調はいかがでしょう。これから、徐々に過ごしやすい季節になることを期待しています。いよいよ2学期が始まりましたね。私は第2回セミナーで学んだ「理解と納得」「繋ぐこと、繋がること」をしっかりと心に留め、引き続き子どもたちの成長を支援していきたいと思っています。皆様はどんな言葉が心に残りましたか。(金坂)